



ましみずの里

天童市立高掬小学校
学校だより No.6
令和5年 9月 7日
校長 齊藤厚志

『高掬小いのちの日』

～「生命」や「生き方」について考える～

「たかだま NEWS」でお知らせしましたが、今年度から毎月7日を『高掬小いのちの日』とし、「生命」や「生き方」、「よりよい人間関係づくり」などについて、考えたり学んだりする日にしています。今月は、全校生に向けて、私の経験したこと、そして、その経験から気づいたことや学んだことを話させていただきました。

『校長講話 ～それが今の私です～』

みなさん、おはようございます。さて、毎月7日は「高掬小いのちの日」です。今日の「いのちの日」は、私が実際に経験したことをお話しして、「命」そして「生きる」ということについて、みなさんと一緒に考えたいなあと考えています。どうぞよろしくお祈りします。

それでは、私自身のことをわかってもらうためにお話しすると、私は実は「難病患者」なのです。私は8年前、「皮膚筋炎」という病気にかかってしまいました。その時は、半年ほど入院して治療を受けました。この病気は、免疫不全の病気で、自分の筋肉を守るのではなく、逆に自分の筋肉を自分で攻撃して壊してしまい、ひどくなると動けなくなって命を落とすという病気です。完全に治るといのが難しく、私は、毎日薬を飲むことによって何とか病気を抑えています。そして、1・2か月に一度定期的に病院に行き、悪くなっていないか検査をして、薬の量を調整しています。そのことによって、今のところ病気が再発することなく、みなさんと一緒にこうして学校生活を送ることができています。しかし、強い薬を飲んでるので、その副作用で、時々熱が出たり、体調が悪くなったり、目がはれたり充血したり、体が痛痒くなったりすることがあります。また、免疫力が弱くなっていて、いろいろな病気になりやすかったり、ウイルスなどに感染しやすくなったりしているので、気をつけて生活しなければなりません。それが今の私です。自分の病気のことって、他の人には話づらいことなのですが、私の大好きな高掬小のみなさんに私のことを知ってもらいたくて、「いのちの日」の今日、正直に話をしました。

さて、病気にかかった8年前を振り返ってみると、この病気にかかっていると医師に告げられた時は、突然のことでもとも動揺してしまいました。それまで大きな病気などしたことがなく、学校ではサッカー一部の顧問もしていて、「生徒たちと一緒にサッカーをしたり審判をしたりして走り回っていたのに…、なんで自分が…、なんでこんな病気に…」、そのような気持ちになったことが思い出されます。そして、「このまま治らず死んでしまうのかな」と、今まで経験したことのない大きな不安に襲われたことなどを覚えています。半年にわたる入院治療などによって、病気の症状が収まり、退院できる、仕事にまた戻れると医師から言われた時は、本当にうれしかったです。そして、病気になったことを通して、心に強く思ったことが2つあります。

1つ目は、今生きていることに感謝、ということです。生きていることは当たり前ではないのです。そのことに感謝して、一日一日を無駄にせず、明るく前向きに悔いなく生きたい、と、その時、強く思いました。「一日一生」という言葉もあります。一日を一生のように生きる、一日一日を大切に生きる、という意味です。それとともに、自分の命と同じように、他の人の命も大事にしたい、そう強く思いました。この思いを心に刻み、私は今を生きています。

2つ目は、自分に関わる全ての人たちに感謝、ということです。この病気にかかって強く感じたのは、人の温かさです。私にかかわるたくさんの人たちが、私のことを気遣い、温かく接してくださいました。サッカー部の子供たちは全員が励ましのメッセージカードを書いて、病院に届けてくれました。私は人の温かさを改めて感じ取ることができました。そして、そのことで、私は生きる希望をもてたのです。さらに、病気になる前のこともいろいろ思い出され、私は、自分一人だけで生きているのではないということを実感することができました。たくさんの人たちのおかげで、私は生かされているのです、生きているのです。今もそうです。学校では、先生方に様々な面で助けてもらっています。また、みなさんの、仲間とともに一生懸命勉強したり仲良く遊んだりしている姿を見たり、「校長先生」と声をかけてもらったりあいさつしてもらったりすることにより、みなさんから元気をもらい、日々楽しく生活することができています。本当にありがとうございます。そのようなことに、病気になって改めて気づくことができました。そういう意味では、病気になったことに感謝です。

みなさんも、大変な思いをしないと気づかないということが、もしかしたらあるかもしれませんが。でも、経験しなくても、他の人の話を聞いたり、本を読んだりして、気づいたり学んだりすることはできます。今日の私の話が、自分の命、そして他の人の命を今よりももっと大切にする、一つのきっかけになってくれたらうれしいです。先程も話をしたように、今こうして生きていることを当たり前と思わず、そのことに感謝し、一日を一生だと思えるくらい大切に生きてほしいと思います。そしてもう一つ。人間は一人では生きていけない、自分に関わる全ての人に感謝、という気持ちで生きていけば、自分の世界が変わってきます。こちらが「ありがとう」という感謝の気持ちで接すると、相手も温かい気持ちで接してくれるようになり、お互いの心がさらに温かくなります。逆に、してもらって当たり前と思ったり、相手を責めたり攻撃したりしていると、お互いの心はとてもしつこいものになってしまいます。どのような気持ちで、人と接し、生きていくのか。これからのみなさんの生き方についても、今日の私の話をきっかけにして、ぜひ一人一人考えてほしいなあと思っています。

これで「高揃小いのちの日」にあたっての、私の話を終わります。私のことや私の考えていることを、今までよりわかってくれたかな。なぜしょっちゅう「命を大切にしてください」と言っているかわかってくれたかな。もし何人かでもわかってくれた人がいたら、こんなにうれしいことはありません。自分のことを正直に話してよかったなあと思っています。最後までしっかりと心で聞いてくれて、ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

